

アメリカサキビ(スイッチグラス) *Panicum virgatum* L.

会長 勝山輝男

昨年の暮れに会員の T さんから不明のイネ科植物の同定を頼まれました。友人が八王子市の路傍で採集されたものだそうです。長さ 1m 位の花序がついた程が 1 本だけの標本なので、植物体の生えていた様子はわかりません。やや大型の円錐花序の枝に柄の短い小穂がやや傾いて付いている様子は若いタキキビの花序に似ています。しかし、小穂は包穎が 2 個あり、第 1 小花は雄性でその護穎は第 2 包穎と同形、第 2 小花は護穎が革質で硬く結実するので、キビ属 *Panicum* またはそれに近い属のものと思われました。長さ約 4mm、幅 2~3mm で紫色を帯びた大型の小穂、小穂の 1/2~3/4 長で先が尖った第 1 苞穎、白色で硬く光沢のある第 2 小花の護穎と内穎が特徴的でした。

手元にある *Flora of North America* のイネ科キビ属を調べたところ、北アメリカ原産の *Panicum virgatum* L., Sp. Pl. 1: 59 (1753) が花序と小穂の形態がよく一致し、有力な候補にあがりました。英名は switchgrass、合衆国西部のプレーリーの優先植物だそうです。世界各地で牧草として利用され、いくつかの栽培品種があるようです。最近ではバイオエタノールの原料植物として脚光を浴びています。また、中国の黄土高原の緑化植物としても注目されています。

不明植物の目星がつくと、過去に記録はないか、和名はないかなど、いろいろと調べることとなります。Y-List (植物和名一学名インデックス) では *Panicum virgatum* はスイッチグラス(栽培)とされています。しかし、どこことなく、見覚えがある植物だったので、ネットでしつこく学名を検索し続けたところ、アメリカサキビの和名が引っ掛かってきました。茨木(2017)が 2014~2015 年に香川県の林道法面に帰化したものを、アメリカサキビの和名を新称し、日本新産帰化植物として報告していました。すっかり忘れていましたが、その著者の末席には私の名前も連

ねられています。筆頭著者は横浜植物会会員であり、徳島県博に所属されている茨木靖さんです。証拠標本の 1 点は神奈川県博(KPM-NA0206872)にも収められており、今回の植物が同じものであることが確認できました。

いまのところ、帰化の記録は他には見当たりません。黄土高原の緑化に有力ならば、繁殖力が旺盛で耐寒性もあるので、今後の国内への帰化が懸念される植物です。

文 献

Freckmann, R. W. and M. G. Lelong, 2003. *Panicum* L. in *Flora of North America* editorial committee ed., *Flora of North America, North of Mexico*. Vol.25. pp.450-488.

茨木 靖・久米 修・木下 寛・木場英久・勝山輝男, 2017. アメリカサキビの野生化の記録. *植物研究雑誌*, 92 (2): 127-129.



図. アメリカサキビ 左:花序 右:小穂(スケール 1mm)

小穂は右下が第 1 包穎(先は尖る)、左が第 2 包穎(先は尖る)、右の下から 2 番目の穎が第 1 小花の護穎(雄性)、中央左の白色のものが第 2 小花で結実し、左が護穎、右が内穎で、ともに先は鈍く、間から雌しべの先が見えている。